

第 1 章

機械・金属



真空技術を基盤にした製造装置開発で、「とんがり」続ける存在に

## アユミ工業(株)

スマートフォンやパソコン、液晶テレビ、自動車などの部品製造現場では、多くの「真空技術」が活用されている。真空の空間は酸素、窒素、水蒸気などの活性ガスがなく、酸化などの化学反応が起きにくく、不純物も少ない。品質やクリーン度が極めて高い製品を生み出すのに適しており、放電など、真空で起きやすい現象を利用した生産技術も数多く生まれている。

この真空技術を基盤にした製造装置分野で、創業以来、粘り強い開発力によって顧客満足度の高い製品を生み出してきた。

### 社是・理念

真空技術で産業や社会の発展に貢献することを目指す。このため、創造性や自主性を持った人材育成に力を入れている。

### 2020年に向けて

日本でモノづくりを続け、国内産業の発展や技術継承に貢献したい。



代表取締役社長  
阿部 英之 氏

主力は、半導体やMEMSの基板を貼り合わせるウエハ接合装置や、電球にガスを封入したり、電子部品をパッケージングしたりする真空封止装置。材料表面を化学結合しやすい状態にして、接着剤や熱を加えずに一体化させる表面活性化接合装置の開発にも力を入れる。

### ■ 一歩一歩積み重ねてモノづくり

2017年に入り、あえて阿部社長は従業員に「うちはモノづくりをしている会社だ」と繰り返し発言。単なる組み立てメーカーではなく、自らの手で設計図面を引き、材料を調達して部品を削り出すところから始めるのが自社の強みだと、改めて社内に浸透させるためだ。「心血を注いで、自分でモノづくりをしないと良いものではない。その苦労を知っている顧客ほど、うちの会社を高く評価してくれる」と阿部社長は語る。



顧客に丁寧に立ち上げ操作を説明する

早くから油拡散ポンプなどを手がけ、国内の真空技術をけん引してきた。今、国内外にライバルメーカーがおり、技術トレンドや需要動向によって、顧客ニーズも、競合関係も世界規模で大きく変わっていく。一方で、製品の開発期間はスタートから納入までに10年以上かかるケースも少なくない。

だからこそ、阿部社長は「ライバルよりも、技術でとんがり、抜きん出る必要がある」と力説する。その「とんがり」が多ければ多いほど、環境変化にも対応しやすくなり、ぶれずに自信をもって製品開発にも取り組めるといふ。

社名の「アユミ」は「着実に前へ歩を進める」という意味が込められる。従業員の3分の1は開発に携わる技術者だが、真空技術を専門に教える大学や教育機関はないため、社内での技術教育や人材育成も欠かせない。人も技術も製品も、一步一步の積み重ねで磨いてきた。その歩みで目指す先は、世界の高みだ。

#### 会社概要

本社住所：兵庫県姫路市別所町家貝町 60  
電話番号：079-253-2771  
設立：1969年11月  
資本金：2200万円  
従業員数：48人（2017年3月時点）  
事業内容：真空技術に関する機械設備・付属品の製造販売  
主な事業所：本社工場、東京営業所、出雲工場  
URL：<http://www.ayumi-ind.co.jp/>

#### 求める社員像

常に自分の頭で考えられる人がほしい。仕事に失敗はつきもの。失敗した時に倒れるのであれば、前向きに倒れてほしいし、そういう人材は会社としてもサポートしていく。

高品質で多様なステンレス製圧力容器を  
迅速に省力生産

## (株)今井鉄工所

今井鉄工所は化学や食品、医薬の製造設備に使われる熱交換器や攪拌槽かくはんそう、化学反応用などのステンレス製圧力容器の生産が得意。自動生産システムを導入し、国から製造認可を取得した安全性の高い圧力容器を設計から生産まで一貫して短納期で手がける。大手の設備設計・製造会社を顧客とし、直径600mmから4800mmまで幅広いサイズをこなせる。1基は平均で重量5〜6tで、年間約130〜150台を生産する。2015年には米国機械学会（ASME）のボイラと圧力容器に関する

### 社是・理念

〈社是〉信用・誠実・創造  
 〈企業理念〉私たちは、顧客の満足する製品を常に信頼される品質でスピーディーに提供し、継続的に地域社会に貢献します。

### 2020年に向けて

本社工場、尼崎第1、尼崎第2、尼崎第3、明石の全工場で、溶接までの全自動化生産を目指す。



代表取締役

今井 正也 氏

規格Uスタンプの認証も取得し、信頼性や営業力を一段と高めた。兵庫県内の主要な港湾地区にある4工場で分業生産し、大型容器をそのまま迅速に海上出荷できる優位性も誇る。

### ■ロボット生産システムを導入

工場の配管を保守する工事会社として創業し、後に压力容器の分野に参入した。今井社長は1993年に創業者である父親の後を継ぎ、2代目社長に就いた。短納期の生産体制を確立し営業力を強め、バブル経済の崩壊やリーマン・ショックなどの経済危機も乗り越えてきた。今井社長は「これからはスピードの時代。顧客にいち早く納められる能力が求められる」と説明する。2012年には手作業のけがきや切断、穴開け加工を自動化できるロボット生産システムを本社工場に導入。压力容器のふたなどに使う鏡板を3次元加工でき、1枚当たりの加工時



大型プラズマ溶接機で  
自動化を進める